

第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

奈良教育大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画で「子どもを学びの主体として捉える教育の理念に立った教育方法を開発する一環として、学校体験活動を推進する」としていることについて、教育の理論と実践が統合された専門的能力を有した教員を養成するために、学校体験活動を推進し、学生へのアンケート調査、他大学での実地調査、教育委員会との協議等を行った結果、ボランティア参加学生数が着実に増加していることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「キャリア教育の充実を図り、学生の教職意識を高める」としていることについて、キャリア教育科目「キャリア・プランニングと意思決定」の開講、教員就職志願者を対象としたガイダンスの改善等により、教員への就職率が年々上昇していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「教科に関する学術的知識と理解力、子どもの発達と学習に関する基礎的知識の習得をめざし、教科専門教育と教科教育の連携を促進する」について、「カリキュラム・フレームワーク」が構築され、学生に賦与すべき資質能力の指針としての目標資質基準の明確化と各授業科目の体系化がなされていること、また、新世代を先導する理数科教員養成のための教育プログラムの開発を進め、「先導理数教育」等の新規授業を含む特別プログラムとして実施していることは、特色ある取組であると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（9 項目）のうち、2 項目が「良好」、7 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「良好」、7 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 中期計画「募集方法、選抜方法を見直す」について、奈良県内高等学校出身者で県下での学校教員を強く志望する者を対象とした地域推薦枠を設定し、地元で活躍する教員の増加を図っていることは、特色ある取組であると判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のうち、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 中期計画「カリキュラムの改善に関する検討体制を強化する」について、平成 18 年度に教育課程の改革・改善等の企画、立案を行う「教育課程開発室」を教職連携組織として設置し、平成 19 年度には「カリキュラム・フレームワーク」を構築するためのプロジェクトを学長の下に設置するなど、カリキュラム改革を組織的に進めていることは、特色ある取組であると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2 項目）のうち、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「学生による企画やプロジェクトの計画並びに実施を通じ、企画力・実践力・組織力と社会性を育成する」について、平成 16 年度より学生の自主的な企画提案を学生委員会が選定、予算措置し、事業の実施後は成果発表会を開催し、検証することにより、学生の企画力、実践力、組織力と社会性の育成に寄与していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「奈良県及び奈良市教育委員会等との協定により、学生ボランティア活動を支援する」について、多くの教育委員会と連携協定を締結し、学生ボランティア派遣の要望に応え、高等学校とは、学生のニーズに応えるため協議を行い、直接協定を締結するなど、学生ボランティア活動を支援し、学生に実践的な学びの場を多数用意していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「学生、教職員及び地域住民とのオープンな交流・対話の場を設定する」について、学長、全学学生、教職員のほか、同窓会、地域住民が参加する「大学懇談会」及び学長と学生が直接対話する「プレジデント・コーヒー・ブレイク・アワー」を開催し、小規模大学の特徴を生かして、学生の生の声を聴き、大学の業務・運営の改善が図られていることは、特色ある取組であると判断される。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画で「研究の成果を組織的、計画的に教育現場と社会に還元する」としていることについて、奈良県下の3つの公立高等学校との「融合理数事業」、県内の私立高等学校との「教育改善・授業改善プロジェクト」、教育コースを設置した県立高等学校との「教育実践研究及び小学校教員養成」等、教育実践に関する開発研究的性格を持った事業を実施し、研究成果を組織的に地域の学校や社会に還元していることは、優れていると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、3項目が「良好」、

1項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目が「良好」、1項目が「不十分」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「研究プロジェクトに対応して、弾力的な研究グループを組織する」について、奈良の文化財に対して、自然科学分野、人文科学分野、造形科学分野が組み合わされた学際研究が推進され、その成果が教育に活かされるなど、教科・講座横断的な研究プロジェクトが独創的な成果を上げていることは、優れていると判断される。

（改善を要する点）

- 中期計画「研究支援体制を強化し、科学研究費補助金の申請件数を5割増とする」とともに、各種研究支援経費の申請を促進する」について、科学研究費申請件数について、平成 18、19 年度は中期計画で定めた目標値に達したが、平成 20、21 年度は目標値に達しておらず、平成 21 年度においては、平成 16 年度と同等の数値まで減少していることから、中期計画は十分には実施されていないと判断される。

（顕著な変化が認められる点）

- 中期計画「研究支援体制を強化し、科学研究費補助金の申請件数を5割増とする」とともに、各種研究支援経費の申請を促進する」について、平成 16～19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「不十分」となった。（「改善を要する点」参照）

（Ⅲ）その他の目標

（1）社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

（参考）

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむ

ね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期目標「教育研究の成果を広く地域社会に発信するとともに、地域社会の学習及び教育に関する要請に応える」について、教育実践総合センター及び特別支援教育研究センターでの教育相談や学校支援事業から現職教員研修・各種公開講座・学生ボランティア派遣など、教育委員会及び学校のニーズに対応した多くのきめ細かな組織的連携と共同事業を実施し、地域の活性化に資していることは、優れていると判断される。

(改善を要する点)

- 中期計画「奈良県大学連合加盟大学間で単位互換を促進するとともに、共同で公開講座を実施する」について、県内の単位互換学生数に比して、奈良教育大学の受入れ学生数は減少傾向で推移しているのに加え、派遣学生数も少数であるため、単位互換が促進されているとはいえないことから、中期計画は十分には実施されていないと判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「生涯学習、人材育成、文化、国際交流等に関する共同事業や支援事業を実施し、地域の活性化に資する」としていることについて、図書館に開設された「えほんのひろば」は、絵本を利用した授業の場、附属幼稚園園児の保育、学生のクラブ活動での利活用の場、子育て支援としての地域における語らいの場として活用され、地域に根ざした図書館として充実した運営がなされていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期目標「留学生の交流、その他諸外国等との教育研究上の交流を促進する」について、日本の大学で初めて「ユネスコ・スクール」への加盟が承認され、世界の学校

と連携しながら、奈良県に位置する3つの世界遺産を通じて、世界遺産の保全・保護の環境教育・異文化理解協力を推進していることは、地域特性を生かした国際交流であり、特色ある取組であると判断される。

(平成16～19年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況)

○ 平成16～19年度の評価において、

中期計画「奈良県大学連合加盟大学間で単位互換を促進するとともに、共同で公開講座を実施する」について、単位互換協定による受入れ学生数が減少しているのに加え、奈良教育大学の学生の参加が無く、十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる

と指摘したところである。

平成20、21年度においては、県内の単位互換学生数に比して、奈良教育大学の受入れ学生数は依然として改善しておらず、派遣学生数も少数であるため、単位互換が促進されているとはいえないことから、当該中期計画に照らして、改善されていないと判断された。